

情報リテラシー教育の実際

千葉大学附属図書館

尾城 孝一

ojiro@ll.chiba-u.ac.jp

アウトライン

- 情報リテラシーとは何か
- 大学図書館における展開
- 事例(千葉大学附属図書館)
- 課題と展望

情報リテラシーとは何か

リテラシー

- 生活言語で短く簡単な文章を読み書きする能力
- 3R(Reading, (W)Riting, (A)Rithmetic)
- 「読み・書き・そろばん(計算)」

機能的リテラシー

- 「日常生活・職業生活の中で、また地域社会の発展のために、役立てることのできるような基礎学力のこと」(『新教育学大辞典 第6巻』第一法規, 1990, p.499-500)

情報リテラシー

- 「情報社会」における機能的リテラシーの一種
- 「情報社会」において生活していくのに不可欠な知識や技能

具体的定義(1)

- 米国図書館協会(American Library Association: ALA)情報リテラシー諮問委員会の最終報告書(1989)
- 「情報リテラシーとは、情報が必要なときそれを認識する能力、および、必要な情報の発見、評価、利用を効果的に行う能力である。…」

具体的定義(2)

- 米国情報リテラシー・フォーラム(National Forum on Information Literacy: NFIL)調査報告(1992)
- 「さまざまな情報源から情報にアクセスし, 評価し, 利用する能力」

情報リテラシーを身に付けた人の持つ属性

- 情報の必要性を認識する
- 正確で完全な情報が知的意思決定の基礎になることを認識する
- 情報ニーズに基づいて質問を定式化する
- 利用可能な情報源を同定する
- 効果的な探索戦略を立てる
- コンピュータなどの技術を利用した情報源にアクセスする
- 情報を評価する
- 実際の適用のために情報を組織化する
- 既存の知識体系の中に新しい情報を統合する
- 批判的思考と問題解決において情報を利用する

具体的定義(3)

- 日本図書館協会図書館利用教育委員会 (1999)
- 「情報探索法・整理法・表現法などを含む総合的な情報活用能力。コンピュータ利用能力だけでなく、情報の評価および情報倫理の理解も含めて、あらゆる情報の活用が可能な能力をいう。図書館利用能力も大きな部分をしめている。」

類縁概念(1)

- コンピュータリテラシー
 - コンピュータで何ができるのか, できないのかを知る事
 - プログラミングの修得やハードウェアの知識
 - ネットワーク通信や各種アプリケーションを利用して, 情報の収集・整理・発信等を行うための能力

類縁概念(2)

- メディアリテラシー
 - マスメディアから情報を批判的に解釈しながら受け取る能力
 - 種々の情報メディア(特に電子メディア)の「使い方」

情報リテラシーとの関わり

- 「コンピュータ」という「メディア」を使って「情報」を活用する, すなわち探索, 整理, 分析, 発信する能力

大学図書館における展開

大学図書館における実態(1)

- 橋洋平「大学・高専図書館における情報リテラシー教育」(平成12年度科学研究費補助金奨励研究(B))
 - 大学図書館・高専図書館を対象とした悉皆調査
 - 平成12年7月から8月に実施
 - 回収率73.4%
 - 調査結果
 - 新生オリエンテーションの実施率
 - 全ての館種で90%を超える
 - 科目としての情報リテラシー教育への参加率
 - 全体で16%, 国立大学で40%
 - その他の利用教育(ワークショップ型, ゼミの要望に応じて)の実施率
 - 全体で59%
 - 情報リテラシー教育の開始年
 - 1990年代後半から急速な伸び

大学図書館における実態(2)

- Googleで検索「情報リテラシー 大学図書館」
 - 866件(平成14年11月4日)
 - 論文, 報告, 講演, 大学図書館のホームページにおける広報

外的要因

- 大学教育改革のながれ
 - 大学設置基準の大綱化(1991)
 - 大学審議会答申「21世紀の大学像と今後の改革について」(1998)
 - 大学審議会答申「グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について」(2000)
- 電子図書館的機能に対する要請
 - 学術審議会建議「大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について」(1996)

大学設置基準の大綱化(1991)

- 大学教育改革のきざし
- カリキュラム改革, 授業評価, 教授法の改革, 講義概要(シラバス)作成

21世紀の大学像と今後の改革について(1998)

- 4つの理念

- 課題探求能力の育成
- 教育研究システムの柔構造化
- 責任ある意思決定と実行
- 多元的な評価システムの確立

グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について(2000)

- (情報リテラシーの向上)

- 「・・・大学教育においては、学生に、グローバルな広がり、主体的に情報を収集し、分析し、判断し、創作し、発信する能力を養うことが不可欠である。その際、情報モラルや、情報機器及び情報通信ネットワークの機能にかかわる基本的知識や能力の習得を重視することが必要である。」

大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について

- 「・・・大学図書館は、これら電子的教材作成、情報リテラシー教育及び学生の自主学習等に対する支援において、その一翼を担うことが求められている。特に、学生向けの利用者教育は、情報リテラシー教育の一環として、大学図書館の協力の下に、全学的に取り組むことができるよう、教育体制の整備が必要である。」

内的要因

- ハイブリッドライブラリにおける利用者支援体制の必要性
- 受動的利用者支援と能動的支援の相互補完

ハイブリッドライブラリにおける利用者 支援体制の必要性

- 図書館のハイブリッド化
 - 資料媒体のハイブリッド化
 - 紙媒体, 電子パッケージ(CD-ROM, DVD等), オンライン情報
 - 所在場所(ロケーション)のハイブリッド化
 - 物理的図書館(自館, 他館), ネットワーク(インターネット)
- 利用者教育から情報リテラシー教育への脱皮

受動的利用者支援と能動的支援

- レファレンスサービス
 - 利用者からの問い合わせを待つ(受動的)
 - 利用者からの個々の具体的な情報要求に応じて随時対応
- 情報リテラシー教育
 - プロアクティブな(先取り型)利用者支援(能動的)
 - 予め体系的, 組織的, 計画的な支援を行う
 - 自立した利用者の育成

事例 (千葉大学附属図書館)

組織体制

- 情報サービス企画係(情報サービス課)の新設(平成12年4月)
 - 閲覧係, 参考係 閲覧・参考係, 情報サービス企画係
 - 定員2名
- 事務分掌規程
 - 情報リテラシー教育の企画立案に関する事。
 - 電子情報の運用及び利用普及に関する事。
 - 集合教育による利用案内及び利用指導に関する事。
 - 本館に係る資料の展示に関する事。
 - 広報及びホームページ(センターを含む。)に関する事。
 - 所掌事務の調査統計に関する事。

情報リテラシー教育のタイプ

- 図書館利用・情報検索ガイダンス
 - 図書館主催ガイダンス
 - 図書館が独自に企画する各種講習会
 - 学部学科・グループ別講習会
 - 授業内容に応じた講習会
 - 授業支援
 - 普遍教育科目『情報処理』支援

図書館主催ガイダンス(1)

- 初級プログラム(新入生～2年生向け)
 - 新入生オリエンテーション
 - 図書館利用の基礎
 - 利用者用コンピュータの利用法, 図書館ウェブページの紹介, OPACの使い方
 - 情報検索の基礎
 - 論理演算等検索方法の基礎
 - ウェブのレファレンスツール, 新聞・雑誌記事検索

図書館主催ガイダンス(2)

- 中上級プログラム(3年生～院生向け)
 - 分野別データベースの検索方法
 - 電子ジャーナルの活用方法
 - レポート論文の作成
 - 導入
 - 論文作成のための情報検索と文献入手
 - まとめと仕上げ
 - 発表(プレゼンテーション)

学部学科・グループ別講習会

- 教員からの依頼により実施
 - オーダーメイドの講習会
 - 授業の1コマを図書館での演習・実習等に当てる
 - 要望に沿った内容を教員と計画
 - 授業内容に沿った情報検索ツール, データベースの検索方法
 - 検索実習
 - 当該分野における館内の重要資料の紹介
 - etc.

授業支援

- 普遍教育『情報処理』の「情報検索入門」を担当
- 授業内容
 - 情報検索とは？
 - 情報要求の発生
 - 情報の探索
 - 検索方法入門
 - キーワードの選択, 前方一致, 論理演算, 再現率と精度
 - 情報の入手
 - 図書館の利用
 - 課題の出題

企画

- 実施時期・スケジュールの策定
 - 2月に前期(4月～7月)分の計画立案
 - 8月に後期(10月～12月)分の計画立案
- 内容の決定
 - 基本プログラムを元にして, 目玉となる新ツールのプログラムを盛り込む
 - 要望の多い分野を中心としたプログラムを組む
 - etc.
- 形式の選択
 - 講義 + デモ形式か, 演習形式か
- 実施会場の確保
 - ライブラリーホール(講義)
 - リテラシー研修室(演習, PC10台配備)
 - 総合メディア基盤センター演習室(演習)

実施のための準備

- シナリオの作成
 - 話の流れとポイントの確認
- スライドの作成
- 配布資料の作成
- 機器の準備
- 受付, アンケートの準備

広報

- インターネット
 - ホームページ
 - [ウェブニュース](#)
 - メールマガジン
 - Library Mail Alert
- 紙媒体
 - ポスター, ちらし

アンケートとフィードバック

- 今日の講習会で役に立ったことはありますか？
- 今日の講習会で既に知っていたことはありますか？
- 今日の講習会で知りたかったのに教えてもらえなかったことはありますか？
- 今日の講習会でわかりにくかったことや不明な点がありますか？
- 情報検索・文献検索に関して他に知りたいことはありますか？
- どのようにしてこの講習会を知りましたか？
- 他にご意見があればお書き下さい。

日常的な準備

- 情報提供
 - 新しいツールや機能に関する情報提供
- 各ツール類の検索方法の修得
 - データベースや電子ジャーナルの使い方
- サポート資料の作成
- ウェブ上での各種ガイド

サポート資料の作成

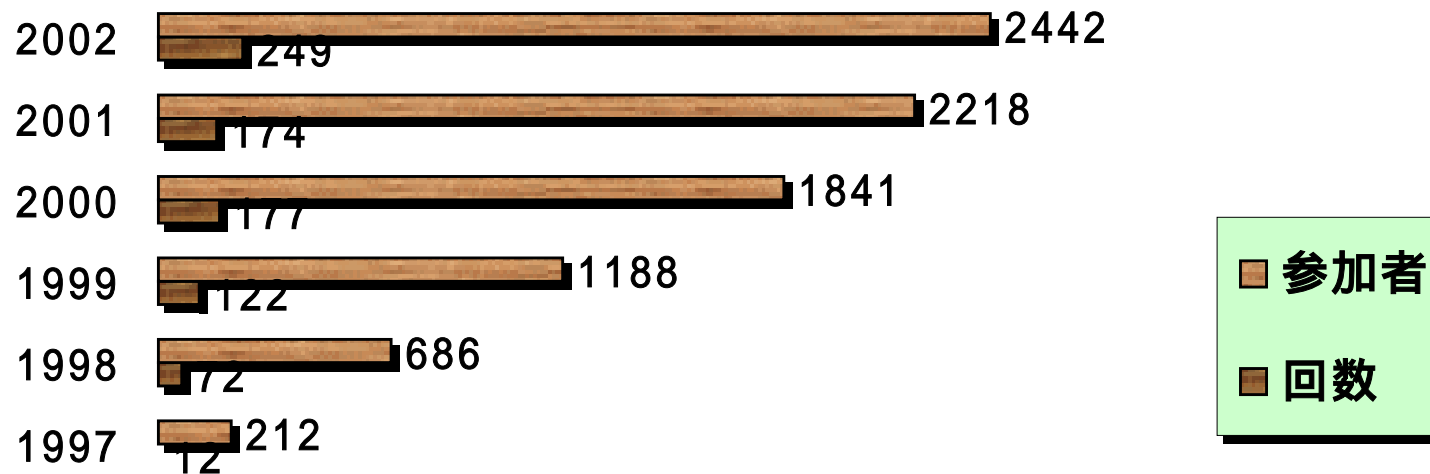
- 紙媒体のパンフレット類
 - 検索ツールやデータベースの検索方法
 - 分類, 著作権の知識
 - ファイルの操作, 学内ネットワークへの接続
 - インターネット利用上の注意
 - 図書館利用に関する知識の啓蒙

ウェブ上での各種ガイド

- オンラインマニュアル
- ナビゲーションのページ
 - 千葉大学情報資源(分野別)
 - ワールドワイドに本を探す!
 - 電子ジャーナルのページ

統計

情報リテラシー教育実績(千葉大学本館)



(2002年は前期のみ)

問題点

- 図書館主催型講習会の浸透
 - 効果的な広報の必要性
 - 図書館だけの努力では限界 教員(授業)との連携
- 人員の育成
 - 担当係の負担大 全館体制の可能性検討
 - 必要な知識・技能
 - 電子情報に関する知識, 資料作成能力, デモ用機器類・ソフトウェアの知識, ネットワークの知識, プレゼン技術
- 評価
 - 利用統計との相関関係

課題と展望

教育プログラムの確立

- ガイドラインに基づく安定したプログラムの確立
- ガイドライン例
 - 米国大学研究図書館協会 (Association of College and Research Libraries: ACRL)
 - 情報探索法指導ガイドライン (Guidelines for Bibliographic Instruction in Academic Libraries, 1977)
 - 日本図書館協会
 - 図書館利用教育ガイドライン - 大学図書館版 (1998)

図書館利用教育ガイドライン - 大学 図書館版 -

- 目標と方法
 - 領域1： 印象づけ
 - 領域2： サービス案内
 - 領域3： 情報探索法指導
 - 領域4： 情報整理法指導
 - 領域5： 情報表現法指導

担当者の育成・サポート体制(1)

- 国立大学図書館協議会電子ジャーナル・タスクフォース「電子ジャーナル利用者教育担当者研修会」
 - 目的
 - 電子ジャーナルの利用者教育担当者の育成
 - 平成13年8月, 14年8月に東西両地区にて開催
 - 国立大学附属図書館のユーザー教育担当者, 計250名が参加
 - プログラム(平成14年度)
 - 基調講演
 - 出版社による, 利用者教育のためのプレゼンテーションと実習
 - Elsevier, Springer, Wiley, Blackwell, Kluwer
 - 事例報告「電子ジャーナル利用者教育の現場から」
 - 全体討議

担当者の育成・サポート体制(2)

- 情報リテラシー教育支援システム構想
 - 国立大学図書館による共同構築の可能性
 - 予備調査を実施
 - 授業・講習会の実施状況
 - 情報リテラシー教育関連資料
 - 個別ガイド・マニュアル等(OPAC, DB, EJ)
 - 計画
 - 情報リテラシー教材の共有化(教材サーバの構築)
 - モデルeラーニングシステム(自学自習用)
 - 図書館員およびエンドユーザ教育に活用
 - 授業での活用

担当者の育成・サポート体制(3)

- 情報リテラシー教育担当者の輪
- 海外の参考例
 - [ACRL Information Literacy website](#)
 - ウェブサイトによるさまざまな情報提供
 - メーリングリストの運営

授業(教員)との連携

- 授業に沿ったオーダーメイド型ガイダンス
- 意義
 - 受講の動機付け
 - 図書館サービスの向上
 - 図書館員の資質の向上
 - 図書館に対する評価
- 阻害要因
 - 図書館の「余力」不足
 - 学内での図書館員の地位, 位置づけ
 - 教員側の偏見

社会貢献における展開

- 先進的な取り組み例
 - 三重大学附属図書館
 - 横浜市立大学学術情報センター

三重大学附属図書館

- 一般向けオープン・ライブラリー
 - 「始めようOPAC(三重大蔵書検索)」
- 三重県内図書館員のための情報リテラシー講習会
 - インターネット上のリソースを用いたレファレンスについて
事例発表・実習
- 三重県看護協会主催認定看護管理者研修
 - 医学部教授による「看護に必要なコンピュータリテラシー」
の講義・実習
 - 図書館による講義・実習

横浜市立大学学術情報センター

- オープン・ガイダンス・デー

- 対象

- 18歳以上の横浜市内在住または在勤の個人, 並びに, 市内団体, 市内企業の研究者等

- 実施方法

- 毎月第2木曜日の14:00-16:00

- 内容

- 大学図書館や専門図書館を利用するコツ
 - 調査・研究テーマの絞り込み, 基本文献, 学術情報, 研究者の探し方
 - インターネットを利用した情報検索技法など

おわりに

コア・コンピタンスとしての情報 リテラシー教育

- コア・コンピタンス
 - 「企業が競合他社に対して圧倒的に優位にある事業分野や他社にはない独自の技術やノウハウを集積している中核となる部門やサービス」
 - アウトソーシングされない部門
- 「情報リテラシー教育」= 図書館のコア・コンピタンス